

第2学年 算数科学習指導案

1 単元名 めざせ！ かけ算名人（「かけ算」）

2 単元について

(1) この単元で培いたい力

乗法九九は、以後の学年で取り扱う乗法の計算における基礎的な技能として欠くことのできない重要なものであり、完成した乗法九九を唱えることで、結果が簡単に求められるというよさがある。乗法九九を構成したり理解したりするにあたっては、体験的な活動や身近な生活体験などと結びつけるなどして、九九に習熟し、確実に答えを求められるようにすることが大切である。本単元の指導では、かけ算の意味を理解し、かけ算を使うことのよさを実感し、進んで用いていこうとする児童を育てていくことが大きなねらいである。そのために、ペアや全体での話し合いを通して九九の規則性に気付くこと、九九カードや個に適したワークシートなどを用いて習熟させること、学習の場面と、体験的な活動や身近な生活体験などと結びつけることを指導の重点とする。これにより、乗法の意味や倍概念の理解を深めたり、楽しみながら技能の定着を図ったりすることができるのではないかと考える。

(2) この単元で培いたい力についての児童の実態

(3) 課題解決能力と共感性を高める支援

ア 課題や見通しを明確にもつために

自力解決の時間を十分に保障し、操作活動や念頭操作で、既習内容を生かして考えをつくり出す過程を大切にしていきたい。そのために、ワークシートを工夫したり、前時までに学習してきた内容やよい考えや方法を、算数コーナーや背面掲示などに残していき、課題解決の見通しに活かせるようにしていく。また評価表を活用し、児童が毎時間学習課題を確認し、自己評価していく中で、単元の流れをつかみ、主体的に学習できるようにしていく。さらに、児童の「算数日記」から取り上げた実生活と結びついた適用題や、コンピュータを取り入れ楽しみながら力を伸ばすことができるような場の設定を行うことで、かけ算でできる、かけ算が使えるよさを味わわせるようにしたい。

イ 学び合い、共感性を高める場の設定

ペアでの交流を重視し、自分の考えをより確かなものにし、どの子も積極的に全体の話し合いの場に臨めるようにしたい。ゲーム的な活動もペアで行い、友達とかかわって学習していくことの楽しさや充実感を味わわせたい。勝ち負けではなく、なぜそう考えるのか、自分の考えを筋道立てて説明することを大切にしたい。そして、全体交流の場では、「同じところ・違うところ・いいところ」など友達の考えを聞くときの視点をもたせ、友達の考えとの相違に気付きながら、よりよい解き方を見つけたり、自分の考えを見直したりできるような支援を工夫していく。そのために板書計画やコンピュータを取り入れた学習場面など工夫して、一人一人の考えが他の児童に視覚的に分かりやすくとらえられるようにしたい。

3 単元の目標

- ・かけ算に関心を持ち、身の回りからかけ算で表せる数量の場面を進んで見つけようとする。
- ・乗法の性質や乗法の交換法則を基に乗法九九を構成することができる。
- ・かけ算の式に表したり九九を唱えたりして問題を解くことができる。
- ・記号「×」や用語「かけ算」、「～倍」の意味、単位とする大きさのいくつ分かを求めるときにかけ算を用いればよいことが分かる。